

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成29年(2017年) 6月の出来事
～ 地元報道より～

南三陸町

南三陸町志津川地区の水田整備が完了し、7年ぶりに田植えが行なわれた。水田の復興と南三陸米のPRのために『田んぼアート』が計画された。復興農地田んぼプロジェクト実行委員会が赤や緑の苗を植えた。田んぼアートは廻館営農組合(西城善昭組合長)が管理する。

◆県高校総体の陸上男子棒高跳びで、志津川高校の千葉星那選手が3m90cmの記録で優勝した。

南三陸町の住宅用地整備は3月末まで100%を達成した。計画した民間住宅等用地827戸、災害公営住宅738戸の、合計1565戸の全てが供用を開始した。気仙沼市は85%にとどまり、県全体では計画する民間宅地2万5325戸、災害公営は1万6140戸のうち進捗率は84.2%となる。

◆南三陸町歌津総合支所が5日から、新たな交流拠点として開庁式が行われた。延べ床面積は1300㎡で、コンクリート造り1階建てで、総建設費は約8億1400万円だった。

南三陸町が志津川市街地に整備した水産関連用地に、第1号となる水産工場が完成した。完成したのは行場商店で、第1・第2工場と2012年5月までに震災からの復興をとげた。そして新たに新魚市場に向う途中の高上げ用地に鉄骨2階建て、床面積2千㎡で約9億円の国の補助金を活用し建設した。地元で水揚げされた秋サケ、養殖銀ザケのオートメーションのコンピューターカットで、1日5万切れを生産する。

◆県漁協気仙沼管内の「養殖カキ」が震災後最高の実績。今季は300トン4億円を出荷し、加工向けの引き合いが強い。

◆歌津「鎮魂の森」で、天台宗の青年僧侶64人

による「七回忌法要」が営まれ、60人の遺族が参加し犠牲者の冥福を祈った。

◆南三陸町内の小学6年生が、家庭から出るゴミを再生エネルギーに換えるバイオマス施設を見学した。循環型社会の仕組みと、資源の大切さを学んだ。

南三陸町は『南三陸道の駅基本構想』に関する意見を募集している。町の道の駅整備推進協議会(三浦洋昭会長)が、基本構想の素案をまとめ佐藤町長に提出した。素案は町の企画課地方創生・官民連携推進室で閲覧できる。閲覧は6月12日までで、この日までに町民の意見を企画課に提出する。

◆南三陸町名足小学校で12日、プールの落成式が行われた。15日には、プール開きが開催されることとなり、児童は初泳ぎを心待ちにしている。

◆南三陸署では、12日歌津で不明者の捜索を行った。歌津中山湾港周辺で署員7人があたった。12日現在で不明者が211人いる。

ローソン志津川店(沼田)で特殊詐欺を防ぎ、南三陸署から感謝が贈られる。5月19日午前10時、町内の女性(62)が電子マネーカードを購入するために来店した。9万5千円の電子マネー購入に女性は迷い、店員に声を掛け、高額だったので特殊詐欺に遭う恐れがあると、説得し警察に相談した。2016年の詐欺被害は、270件約6億6500万円の被害で、今年4月末で93件、1億5100万円となっている。

◆南三陸町は志津川・石巻郵便局と、町民の安全生活確保のため協定締結へ。

志津川高校では公立高校で初めての学習支援センターを開設する。6月9日『志翔學舎』として開設し、生徒の学力や魅力の向上を図る。運営は東京のNPO法人キッズドアに委託する。運営費は年間1200万円で、町のふるさと納税を活用する。

◆南三陸町志津川中央団地の「災害公営住宅」で、13日夕方供用電源トラブルで停電が発生した。給水もできなくなり、全76世帯が断水したほか一部のエレベーターが使用できなくなった。13日の午後9日には仮復旧された。

◆南三陸町議会は、家賃未請求問題の原因究明に特別委員会を設置。

6月定例議会の一般質問の、菅原辰雄議員は「震災復興途上での佐藤町長の町づくりを維持する必要がある、今秋の町長選挙に対する覚悟を聞かせて欲しい」と質問した。それに対してこの14日に、次の町長選に出場の表明をするとした。6月28日に記者会見し、政策を発表すると語った。前回町長選に立候補した小野寺氏は、「今のところ白紙」と答えている。

◆南三陸町は宮城6区(気仙沼市・登米市・栗原市など)から、5区の石巻圏域へ改正公選法が変更され、次期衆院選が適用となる。

◆南三陸町の「サンオーレそではま」が7月15日に、7年ぶりに再開する。トイレやシャワー棟を整備し、8月20日までの期間、夏のにぎわいの復活へ町は期待をよせる。毎年1万人の来場者があった観光スポットが復活する。

◆南三陸町の5月末の人口は1万3380人で、前回から6人増えた。出生9人に対して死亡は16人で、自然死はマイナス7人だった。

◆南三陸町と南三陸人権啓発活動地域ネット協議会が「人権の花運動」として、町内の小学校と幼稚園に花を贈り、子供たちと一緒に花を植えた。

◆南三陸町立伊里前小学校のプールが老朽化のため、年度内の完成を目指し新プールの整備へ。

◆南三陸町野球協会の阿部会長が、23日志津川高校に夏の大会での健闘と期待を込めたボールを贈った。

◆南三陸町の町長・町議選は、10月22日の投票となり、県知事選と同時執行となる。

◆南三陸町は東日本大震災後の状況を踏まえ、全町道を見直し1割ほどを廃止にする。

28日佐藤町長の記者会見がアリーナ会議室で開催された。佐藤町長は、震災記念公園・道の駅構想など、復興計画の総仕上げのほか、南三陸ブランド創りや、町職員の意識改革など、次期への決意を語った。

◆仙台市にあるキリンビール工場で、キリン復興応援プロジェクトが開かれ、キリン仙台工場南三陸の物産をPRするブースを7月1日から設置する。

◆2016年の出生は、南三陸町では62人で17人減少し、気仙沼市は356人で前年比で30人増加した。

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

6月の出来事

気仙沼市

◇大島医院が6月1日の再開となり、気仙沼市八日町出身の森田良平医師(52)が着任した。

◇気仙沼市議会の政治倫理審査会は、飲運疑念で辞職勧告を受けた熊谷雅裕氏(65)に対し、勧告決議の履行と一般質問の自粛を勧告するよう熊谷伸一議長に報告した。

気仙沼市の認可保育施設の待機児童が、4月時点で前年の3倍となっている。4月1日時点で27人にも上り、解消へ私立保育所にも補助金などの対策が必要となっている。待機児童は0～2歳に集中し、核家族化や就労希望の母親が多い事が理由に上げられる。

◇気仙沼市のGWの入込人数は11万7598人と、前年より7.8%(1万人)の減少となった。大島汽船の「遊覧船」は、大島大橋の架設により利用客が4倍に増えた。

◇気仙沼市の仮設住宅について、入居8年目の来年も要件を満たしている被災者に「特定延長」を認めることを決定した。

◇気仙沼向洋高校の再建事業の工事が順調に進み、新年度の供用開始に向け進み、野球場はほぼ完成に近づいている。

◇気仙沼市の「復興記念公園」の基本設計がまとまった。陣山地区内に750㎡に慰霊碑・モニュメントなどを整備する。概算事業費は4億3千万円。

◇気仙沼市神山川の堤防計画の中で、地域住民の左岸の桜並木保存への新整備案の県の住民説明会が19日に開催され示される。当初は5本程度残せるとしていた桜が増える可能性がある。

気仙沼市の震災前のピーク時を上回った。「生活保護率」が最高のピーク時は2010年11月で397世帯484人、0.662%だった。大震災で義援金による一時的な収入で大幅に下がったが、年々受給者が増加している。受給者はピーク時より50人減少しているため、人口減少が影響している。今年3月では343世帯430人で、人口が1万人減少し人口あたり0.675%で過去最高となった。

◇気仙沼鹿折加工組合の「海とごちそう」のギフト販売で、最高の売上2600万円となった。シンガポールなどの輸出も小規模の制約があるものの順調という。

◇気仙沼市海の殉職者慰霊塔の修復費用の支援を、市に対して要望した。

気仙沼市の菅原市長は福島原発事件に伴った日基準(1K当たり8千ベクレル)以下の汚染廃棄物処理の県の提案を受ける考えを示した。汚染物は自前で処理をする。他市町の一般ごみの受け入れも受諾する方針で、震災の支援をうけている事を理由に上げた。

◇気仙沼市は大震災の被災者に向けた最大5年間適用される「雑損控除」が終了し、災害公営住宅家賃が気仙沼市試算では平均的ケースで、2倍以上となる。(家賃変動の例…月1万3600円が3万300円の2倍以上となる。)

◇気仙沼市は被災世帯の保育料の源泉を継続す

る。対象者は入園者の25%と見ている。

気仙沼市内の2016年度の農作物被害が、駆除などの鳥獣対策が功を奏し、シカ・ハクビシンが半分に減少し、被害が4割減った。

◇気仙沼市のホテル望洋館が施設の老朽化や業績不振で3月いっぱい、50年の営業にピリオドとなる。地元からは惜しむ声が上がっている。◇気仙沼市の唐桑・中井・小原木の三小学校では、合同修学旅行を行ない、寝食を共にして楽しい思い出をつくった。

気仙沼市は震災後の臨時災害FM放送が26日終了した事で、7月1日から『ラジオ気仙沼』として始動する。5年間は市が基盤整備に1億円を支援し委託する。今後は、FMとして自立を目指す。

◇地域の歴史や文化・自然にふれながら歩くトレッキングコース「オレル」の「唐桑オレルコース」が年内に認定の見通し。韓国・済州島の機関に申請をした。

気仙沼市は南町海岸に公共・公益施設の建設計画をすすめている。8月には工事に入り来春のオープンを目指す。海から景観では右側に民間商業施設・左側には展望ラウンジや音楽室を配した、南町海岸公共・公益施設(仮称)とし、にぎわい復活の拠点として建設を進める。

◇気仙沼市の本吉三陸線防集経由バスの実証実験では、利用者が5.7倍にものぼった。通院・通学・買い物と住民の用途も多機に及び、10月から定期運行を予定している。